

調査報告

岐阜県大垣市慈応寺の本尊・聖観音菩薩像の調査

Investigation of the principal image of Sho-Kannon Bodhisattva at Jiōji Temple, Ōgaki City, Gifu Prefectureō

小野佳代*

Kayo ONO

キーワード：仏像、未指定文化財、慈応寺、聖観音菩薩

Keyword : Buddhist statues, Undesignated cultural property, Jiōji Temple, Sho-Kannon Bodhisattva (Aryāvalokiteśvara)

要約

2022年5月にはじめて岐阜県長松町に所在する慈応寺を訪問し、本尊の聖観音菩薩立像を拝見した。その時点で観音像は未指定文化財であったが、平安時代後期の像に見えたことから、今後調査を実施し、指定文化財を目指したいと考えた。2023年12月1日に再度慈応寺を訪れ、本尊の聖観音菩薩立像の調査を実施した。その結果、本像は像高97.5cm、針葉樹の割矧ぎ造りの技法で彫出されたものであり、像の特徴から、11世紀末から12世紀頃に製作された像と推測された。また本像は、昭和11年(1936)に岐阜市が主催した日本大博覧会に出品された仏像でもある。美濃地方の平安時代後期および近代の歴史を考える上で重要な像といえる。

abstract

In May 2022, I visited Jiōji Temple in Nagamatsu-cho, Gifu Prefecture for the first time and saw the principal figure, the standing statue of Sho-Kannon Bodhisattva (Aryāvalokiteśvara). At that time, the Kannon statue was an undesignated cultural property, but since it looked like a statue from the late Heian period, I decided to conduct further investigation with the aim of having it designated as a cultural property. On December 1, 2023, I visited Jiōji Temple again and investigated the Sho-Kannon Bodhisattva statue. As a result, the statue is 97.5cm tall and was carved using the coniferous warihagi technique (splitting a piece of wood, hollowing out the inside, and rejoining it), and based on the characteristics of the statue, it was determined that it was made between the end of the 11th century and the 12th

* 東海学園大学人文学部人文学科

century. This statue is also one of the Buddhist statues that was exhibited at the Great Japan Exposition sponsored by Gifu City in 1936. This statue is important when considering the late Heian period and modern history of the Mino region.

はじめに

2019年9月に仏教総合月刊誌の『大法輪』（大法輪閣）に「気がつけば仏像三昧な日々」というエッセイを書いたことがあった⁽¹⁾。その記事を読んだ方から手紙をいただき、2020年3月に大垣市の曹洞宗寺院の仏像調査をすることになった。これが私にとって大垣の寺院との最初の縁であった。後日、大垣市教育委員会文化振興課を訪問し、文化財担当の方に調査報告書を直接お渡しした。折しも文化振興課では、大垣市の真宗寺院から仏像の文化財指定に関する相談を受け、回答に困っているところであった。その場で仏像に関するアドバイスをしたのがきっかけとなり、私とその寺院の調査に行くことになった。これが大垣の寺院との二度目の縁である。

2022年1月、某真宗寺院の方が仏像彫刻研究の泰斗、山本勉先生の出演するラジオ番組を聞き、山本先生宛てに寺院の本尊の写真を同封した手紙を送ったことがあった。その手紙を受け取った山本先生から私の元に連絡が入り、翌月、私が調査に出向くことになった。この真宗寺院がまたも大垣の寺院で、これが三度目の縁となった。作成した調査報告書を、先の調査で交流のあった大垣市教育委員会文化振興課の方に提出したところ、まもなくしてその報告書にもとづいて文化財指定の審議がなされ、2023年2月に大垣市の文化財に指定された。

この三度目の縁となった真宗寺院の調査報告書を作成する過程で、大垣市には他にどのような平安仏が伝存するのかが気になり、2022年5月に長松町にある真言宗寺院の慈応寺を訪問した。目的の平安仏とは薬師如来坐像であったが、想像以上にボリュームのある大変立派な像であった。その時点で薬師像は市指定文化財であったが、後日調査を実施したところ、平安時代前期（9世紀頃）まで遡ることが分かり、2024年3月に岐阜県の重要文化財に指定された。

実は慈応寺を最初に訪問した際、本堂の須弥壇上に置かれた厨子の扉も開けていただき、本尊の聖観音菩薩立像も拝見していた。聖観音像は薬師像よりもほっそりとした、素朴で美しい平安仏であった。聖観音像は未指定文化財であったことから、調査のうえ、市指定文化財を目指すことになった。慈応寺における薬師像と本尊聖観音像の仏像調査が、私と大垣の寺院との四度目の縁となった。

意図せずして、大垣市の寺院にたびたび足を運ぶことになった。2024年2月には大垣市の守屋多々志美術館で講演する機会をいただき、また2025年度開催の西美濃生涯学習講座で、大垣の仏像について講演することも予定されている。現在、岐阜県の文化財保護審議会委員を務めているが、岐阜県内の多くの市町村の中でも、大垣市との交流が最も深い。誠にありがたいことである。

ここでは、四度目の縁となった慈応寺の本尊・聖観音菩薩立像の調査結果を報告したい。



図1 聖観音菩薩立像 大垣・慈応寺

一、調査の概要 (図1~12)

〔形状〕

高髻。地髪は天冠台下の正面髪際から両耳までを疎ら彫りとし、その他は平彫り。地髪に宝冠受けの段差をつくる。白毫相をあらわす。耳朶不環。左肩から条帛を懸ける。天衣は両肩をおおい、左右とも肘内側から下方に垂れ、脚部正面でU字状をなして逆の肘にかかり、外側に垂らす。両肘の外側に別に天衣の輪をつくる。裾と腰布を着け、いずれも腰で折返す(裾は正面でU字形をなす)。両手屈臂。左手は腹前で未開敷蓮華の茎を執り、右手は掌を前にして立て、第一指と二指を捻じる。両足をわずかに開いて蓮華座上に立つ。

〔法量〕(単位 cm)

像 高 97.5 (三尺二寸二分)

髪際高 84.2 (二尺七寸八分)

頂一顎	12.2	面 長	9.5
面 幅	10.1	耳 張	11.6
面 奥	12.9	胸 奥	12.4
腹 奥	13.1	肘 張	28.8
裙裾張	20.7	足先開	15.4

〔品質構造〕

木造(針葉樹)。割矧ぎ造り※。素地。白毫水晶嵌入。宝冠および付属する左右装飾・冠繪、環珞付き胸飾、腕釧、以上銅製、鍍金。宝冠と胸飾の装飾の一部、玉製。

頭体幹部は一材から彫出し、両耳の後ろを通る線で前後に割矧ぎ、内削りをほどこして割首する。左腕は肩・肘、右腕は肩・肘・手首に各別材を矧ぐ。頭部天冠台より上の地髪部後方を大きく切って、髻(後補、前後二材)を矧ぐ。像背面、右腰から臀部にかけて長方形に切って別材を当てる。両足裏に柄を彫り出し、像底に挿込み矧ぎか(図10)。天衣遊離部は別材、肘で鉸留めする。

表面は、素地仕上げ。漆が薄く盛られた箇所もある。瞳を墨で描く。唇は朱彩。

※木彫の造像技法の一。「矧ぐ」は接合するの意。仏像を一木から彫り出す際に前後、または左右に割り放し、内削りをほどこしてから再び接合して仕上げる技法。三道の下から割り放して頭部を仕上げる「割首」という手法も行われた。

〔伝来〕

慈応寺は、大垣市長松町に所在する真言宗智山派の寺院である。寺伝によると⁽²⁾、慈覚大師円仁（794～864年）が自ら本尊の「正（聖）観世音木像一軀」を彫刻し、寺院を創建したことに始まるという。のちに天正年中（1573～92年）に至って兵火により諸堂を焼失した。元禄8年（1695）には大垣寒松寺住職の克雅法印が本尊の霊夢を感じて寺院を中興し、遮那院（大垣中町に所在、牛屋山大日寺と称す）の末寺になったという。慈応寺の創建年代は寺伝によって知られるのみで、正確な創建時期は不明である。

現在、本堂の中央の須弥壇上、黒漆塗りの厨子内に安置される。

〔保存状態〕

髻、白毫珠（水晶）、両肘より先、像背面の長方形当て板、天衣遊離部、持物（未開敷蓮華）、宝冠、胸飾、腕釧、以上後補。

像表面にのこる漆層、唇の朱彩、後補。両肩周辺に虫食いの跡が多く残る。

光背（蓮弁形拳身光、二重円相。木製、漆箔）・台座（蓮華座。木製、漆箔・朱漆、框装飾の一部に銅製鍍金）、各後補。

二、製作年代

慈応寺の本尊・聖観音菩薩立像は、針葉樹の割矧ぎ造りの技法によって彫出された、像高97.5cm、彫眼、素地仕上げの像である。

本像は頭頂に損傷があったのか、地髪部を大きく切った跡がある（図8）。当初の形状は、たとえば京都・平等院鳳凰堂の雲中供養菩薩像（11世紀、図13・14）や、滋賀・延暦寺横川中堂の聖観音菩薩立像（12世紀、図17）、島根雲南市・萬福寺の胎藏界大日如来坐像（12世紀、図15・16）の頭部ように、地髪部が腕を伏せたように盛り上がり、その上に垂髪をあらわしていたと推測される（図18）。

鳳凰堂の雲中供養菩薩像は、11世紀半ばに和様を完成させた仏師定朝の工房製作の像として知られている。像にみられる円満な顔や瞑想的な表情、彫りが浅く平行して流れる衣文、平明優雅な作風は和様の典型として後世までながく流行した。延暦寺の聖観音菩薩立像や萬福寺の胎藏界大日如来像も12世紀の定朝様の典型的な作例である。

慈応寺本尊像の面相は、図6では優しい表情にもみえるが、実際には図1と図11の表情が真に近く、穏やかとも言い難い。本像の耳の形状も、定朝様よりも古様で素朴な印象を受ける。像の下半身の造りは細身となり、像底の形は12世紀の像に近い（図10）。以上から本像の製作年代は、11世紀末から12世紀頃と推測される。まさに定朝様が流行した時期だが、それに拠らない当地域の地方仏といえるだろう。

本像は、寺伝では慈覚大師円仁（794～864年）の自刻の像とされるが、古い史料が残らないことから、創建年が円仁の年代である平安時代前期まで遡るかは確認できない。しかしながら本像の製作年が平安時代後期であることから、慈応寺の創建年代もその頃まで遡る可能性がある。また慈応寺は現在、真言宗智山派の寺院であるが、円仁の創建と伝承されてきたことから、もとは天台宗寺院だったと考えられる。天正年中（1573～92年）に兵火によって寺院焼失後、元禄8年（1695）に復興され、真言宗の遮那院の末寺となった際に真言宗に改宗したのであろう。

明治元年（1868）の神仏分離令により、遮那院および大垣八幡宮神宮寺が廃寺となり、両寺院の仏像仏具が慈応寺に移された。その際に大垣八幡宮の神宮寺の旧本尊像であった薬師如来坐像も慈応寺に移されたが、この薬師像は2022年11月の調査で、平安時代前期（9世紀頃）の像と分かり、冒頭でも述べたとおり、2024年3月に岐阜県の重要文化財となった⁽³⁾。大垣市の仏像としてはこの慈応寺薬師像が、美濃国分寺の本尊薬師如来坐像（10世紀後半～11世紀初頃世）よりも古い像である。大垣市内の仏像調査は十分ではないため、他にも古い像が伝存する可能性はあるが、現在のところ大垣市内の国・県・市指定の文化財（仏像彫刻）の指定は二十件に満たない。このうち市指定文化財をみると、仏像彫刻では室町時代や江戸時代の仏像が少なからず含まれており、平安時代まで遡る像はわずかに数例しかない。よってこのたび調査した慈応寺聖観音菩薩立像は、大垣市内では平安時代後期まで遡る貴重な像として位置づけられ、当地域のこの時期の仏教の歴史や文化を考える上で重要な像といえるだろう。

三、躍進日本大博覧会に出品された本尊像

昭和11年（1936）3月25日から5月15日までの52日間、岐阜市主催の「躍進日本大博覧会」が岐阜公園および長良川畔一帯の五万坪を会場として行われた⁽⁴⁾。会場には、近代科学館、観光館、農林館、郷土館、宗教館、昆虫館、満州館、朝鮮館、台湾館、ラジオ館、水族館などのほか、関刀剣鍛錬場や美濃紙製造実演場、長良川鶉飼の実演場などもあり、全部で三十数館があったという（図21）。このうち公園内の三重塔では高野山弘法大師特別開帳が行われ、揖斐郡横蔵寺の秘宝入定妙心舍利仏（ミイラ）の開扉も行われた。この博覧会は会期52日間で、約193万2000もの人が訪れたという。

慈応寺には、躍進日本大博覧会に関する資料が2点残る。「宝物（仏像）出陳許可申請書」（図20）と博覧会に出品した「感謝状」（図19）である。許可申請書をみると、①本尊の木造聖観音立像、②木造胎蔵界大日如来坐像、③木造金剛界大日如来坐像の計3軀の像を博覧会に出陳することを願い出たことがわかる。加えて、慈応寺には岐阜市長と岐阜県知事の名前の入った感謝状も残っている。慈応寺本尊像は、博覧会の宗教館で展示されたのである（図22）。宗教館は今の名和昆虫博物館の東側にあったようだ。『岐阜市史』には博覧会関連の記事が少なく、宗教館では慈応寺のほか、どの寺院から何が出品されたのかがよくわからない。博覧会関連の資料の多くが太

平洋戦争の岐阜空襲で失われたという。慈応寺に博覧館関連の資料が残り、また博覧会に出品された3軀の像がなお慈応寺本堂内に現存するのも貴重である。近代の大垣市の歴史を考える上でも重要といえよう。

おわりに

2023年12月1日に大垣市長松町の慈応寺で実施した本尊・聖観音菩薩立像の調査結果と若干の考察について述べてきた。すでに調査報告書を作成し、慈応寺および大垣市教育委員会に提出済みである。今後、慈応寺本尊像が大垣市の文化財保護審議会にて審議され、市指定文化財となることが期待される。

私は現在、愛知県や岐阜県など複数の自治体の文化財保護審議会委員を務めるが、それらの任にあたる以前から地域の仏像調査に取り組んできた。調査した仏像については、できる限り調査報告書を作成し、寺院と自治体の教育委員会の文化財担当者に直接お渡ししてきた。その報告書に基づいて指定文化財に至ったものが少なくない。つまり、文化財保護審議会委員の任にあるか否かではなく、誰かが仏像調査を行い、報告書を寺院と自治体で共有することが大事で、それが結果的に指定につながったと思われる。冒頭で述べた縁のあった大垣市の寺院の仏像は、いずれも調査報告書が寺院と自治体で共有されている。私は今なお大垣市の文化財保護審議会委員ではない。現在、多くの自治体の文化財保護審議会で、美術史分野（彫刻、絵画、工芸）を担当できる専門家が見つからないという話を耳にする。地域の歴史や文化の魅力を発見し、後世に伝えていくためにも、地域に目を向ける専門家が必須である。今後、実地調査に取り組む人材が一人でも増えることを期待したい。

〔注〕

- (1) 「気がつけば仏像三昧な日々」(『大法輪』、大法論閣、2019年9月)。
- (2) 「本尊祭典会勸進簿」(大正7・1918年7月、慈応寺)。
『新修大垣市史』通史編1、市内各町誌・長松町慈応寺(大垣市、1968年)。
- (3) 小野佳代「岐阜県大垣市・慈応寺薬師如来坐像について」(『仏教芸術』13、中央公論美術出版、2024年9月)。
- (4) 『岐阜市史』史料編近代2(大衆書房、1978年、252頁)。

〔図版出典〕

図 1～12 高橋寛撮影。

図 13・14 特別展図録『平等院鳳凰堂と浄土院その美と信仰』（愛媛県美術館、静岡市美術館、新潟県立近代美術館、読売新聞社、2021年）。

図 15・16 企画展図録『祈りの仏像 出雲の地より』（島根県立美術館、2022年）。

図 17 特別展図録『最澄と天台宗のすべて』（東京国立博物館、九州国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社、2021年）。

図 18 筆者作成。

図 19・20 慈応寺にて筆者撮影。

図 21・22 『岐阜市史』史料編近代2（大衆書房、1978年）。

〔付記〕

2023年12月1日の慈応寺本尊・聖観音菩薩立像の調査では、住職の堀田宗照師をはじめ、愛知教育大学教授の鷹巣純先生、岐阜県文化伝承課および大垣市教育委員会文化振興課の職員の文化財担当の方々のお世話になり、仏像の移動および撮影では高橋寛氏に協力いただきました。ここに記してお礼申し上げます。

なお本稿は、科学研究費補助金基盤研究（C）「愛知県の仏像の特色に関する総合的な調査研究—技法の伝播や人の移動に注目して—」の研究成果の一部です。

※ 写真は次ページ以降に掲載。

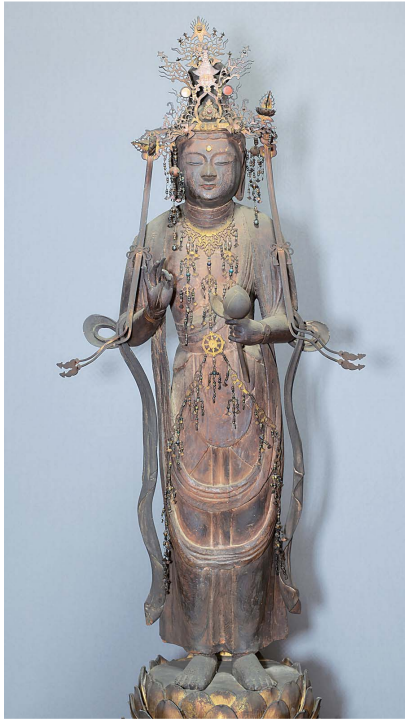


図 2 正面



図 3 背面

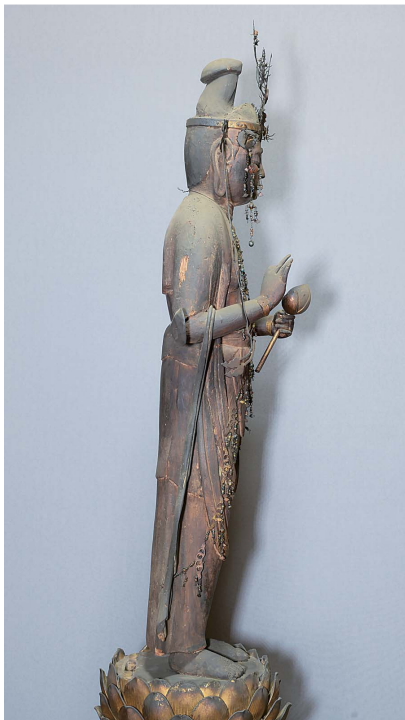


図 4 右側面



図 5 左斜側面



图6 頭部正面



图7 頭部背面



图8 頭部右側面



图9 頭部左側面



図10 像底



図11 頭部正面（照明なし）

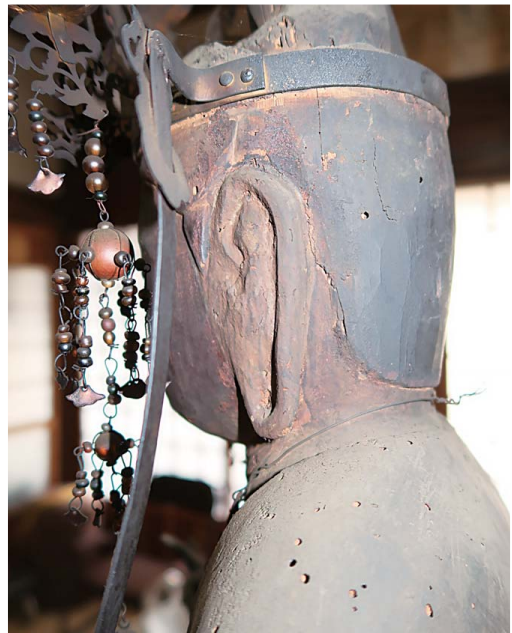


図12 頭部左斜背面



図13 雲中供養菩薩像北13号
京都・平等院鳳凰堂 11世紀



図14 雲中供養菩薩像南20号
京都・平等院鳳凰堂 11世紀



図15 金剛界大日如来像 正面
島根雲南市・萬福寺 12世紀



図16 金剛界大日如来像 左側面
島根雲南市・萬福寺 12世紀



図17 聖観音菩薩立像
滋賀・延暦寺 横川中堂 12世紀



図 18 聖観音像頭部 想定復元

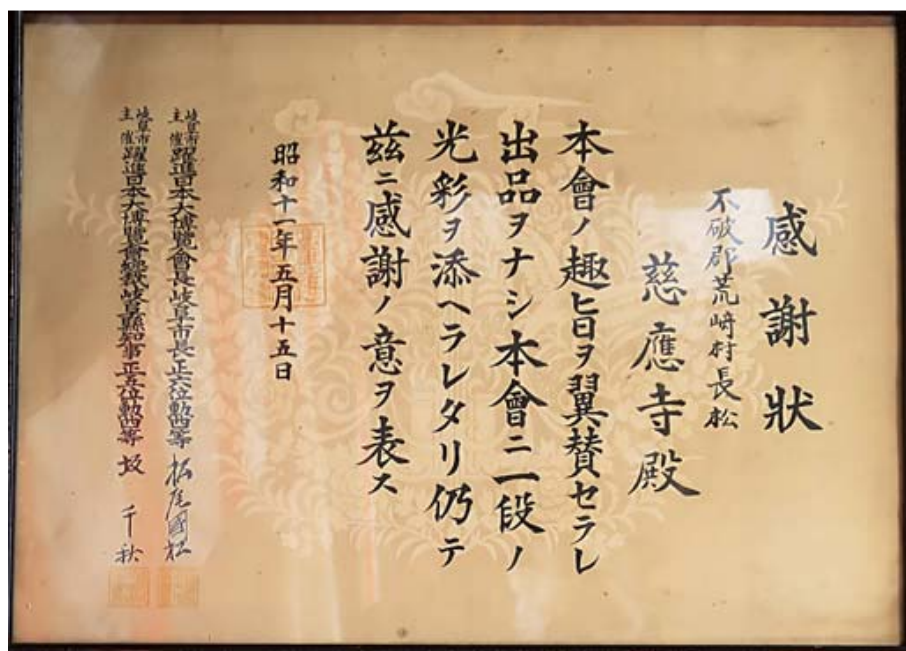


図 19 博覧会に出品した「感謝状」

<p>寶物(佛像)出陳許可申請書</p>	
<p>不破郡荒崎村長 松</p>	
<p>意 應 寺</p>	
<p>一木造聖觀音立像 一軀</p>	<p>一木造胎藏界大日如來坐像 一軀</p>
<p>一木造金剛界大日如來坐像 一軀</p>	
<p>右佛像自昭和十一年三月二十五日至五月十五日五十二日間早市主 邊道蓮百本大博覽會宗教館ニ出陳致シ度候條御許行相成候事 相添へ申上候也</p>	
<p>昭和十一年三月二十日</p>	
<p>右</p>	<p>印 職 堀田 準 快</p>



図20 宝物(仏像)出陳許可申請書



図 21 躍進日本大博覧会配置図



図 22 躍進日本大博覧会配置図 (一部拡大)